

「命を守るヘルメット着用促進グランプリ」活動結果報告書

チーム名	ヘルメツポ少佐	キャプテン	長柄秀真
学校名	愛知県立西尾高等学校	活動人数	4人
取組活動	<p>① 応募動機 応募動機：西尾高校の「当たり前」を変える決意 本グランプリに挑戦する原点は、8月の「高校生サミット」に西尾高校代表として参加した際に出会った、ご遺族の痛切な叫びである。「ヘルメットさえあれば、命が守れた」という言葉に魂を揺さぶられたと同時に、着用者を「変」「珍しい」と見る自校の風潮に強い憤りを感じた。 大人の決めた「努力義務」という言葉をなぞるのではなく、高校生自身の言葉で仲間の命を守りたい。そんな時、担任の馮先生からこの企画を紹介され、「現状を変えるチャンスだ」と確信した。あの日感じた憤りを確固たる使命感へと変え、信頼する友人と結成したチーム「ヘルメツポ少佐」と共に、西尾高校の空気を根底から変える覚悟で全力で挑んだ。</p> <p>② 事前アンケート 最初にどういった方向性の企画をするか、今はどう言った状況なのか知るために1,2年生全体にアンケートを実施した。まずその結果を抜粋して説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ヘルメットを所有しているか。 はい=62% ヘルメットを普段つけているか。必ず着用する=12%(愛知県全体の着用率は18.4%) ヘルメットを着用しない理由。(しなかった人のみ) <ol style="list-style-type: none"> 周りの人が被らない 髪型が崩れるから 熱く蒸れるから 自分に似合わないから 費用が高い ヘルメットの着用率上げるために効果的な活動。 <ol style="list-style-type: none"> デザイン改良 補助金 無料配布 <p>まとめ これらのことから62%の人がヘルメットを所有しているのに普段着用していないことがわかった。そして着用しない理由や効果的だと思うことから活動を考えることにした。</p> <p>③ 西尾高校の「空気を塗り替える」3つの作戦 〈作戦一つ目〉昇降口での呼びかけ(10月~11月) まずは自分たちの存在を全校に知ってもらうことから始めようとヘルメットの旗を掲げ、朝7:45から昇降口で挨拶をしながらヘルメットを着用するように呼びかけた。</p>		

一時期は、挨拶や呼びかけだけでなく、ビラには、「ヒス構文」という表現を用いて目に留まるようにし、話題になるよう訴えかけた。「ヒス構文」とは、中高生の間でよく使われている自虐・被害者意識をもたせたヒステリックな口調で、相手に罪悪感を抱かせるような言葉遣いのことである。詳しくは別紙を参照。この呼びかけの効果をアンケートで測ったところ、「ヘルメツポ少佐による呼びかけにより着用するようになったか。(以前から着用していた人は除く)」という問いに対して14%の人が「はい」と答えた。

〈作戦二つ目〉クラス対抗ヘルメット着用率グランプリ

【最重点取組】西尾高校の空気を変えた「クラス対抗・着用率向上キャンペーン」

私たちが「最も効果があった」と確信している活動が、全校生徒を巻き込んだこのクラス対抗イベントである。負の同調圧力を「クラスの団結力」へと転換させることができた。

1. 組織的な運営体制と緻密なスケジュール

「やるなら本気で」を合言葉に、チーム「ヘルメツポ少佐」が司令塔となり、校風委員会と連携して実施した。毎朝のST（朝の会）で校風委員が「自転車通学者数」と「着用者数」をカウントし、各クラスの結果をTeams上の共有Excelに即座に入力。翌朝には最新順位を各校風委員が全校にフィードバックし、常に「熱を逃さない」運営を徹底した。

2. 全クラスを主役にする「多角的な表彰制度」

「どうせ勝てない」という諦めをなくすため、独自の賞を設計。

・【優勝】圧倒的な規範クラス（最高着用率）

誇りを持ってヘルメットを被る「西尾高校の顔」を称えます。パイン飴と賞状を贈呈。

・【MIC賞（Most Improved Class）】劇的な変化を称える（最大伸び率）

初日に低迷していたクラスでも、活動を通じて意識が変わればトップに立てる仕組み。これが「最後の一人」を動かす最大の原動力となった。同じくパイン飴と賞状を贈呈。

3. 実施後のアンケートによる生徒たちの反応

- ・「めっちゃ面白かったです。とっても良い企画だと思う。」
- ・「パインあめ欲しかった！」
- ・「着用率が目に見えて良くなっていくのがすごかった。」
- ・「劇的に増えた実感が持てた。増えたクラスがすごい。」
- ・「多くのクラスが真剣に取り組んでいて素晴らしかった。」
- ・「今まで意識が低かったけど、5組（優勝クラス）の伸びを見てすごいと思った。」

〈作戦三つ目〉交通安全学習（12月8日 7限）

例年は、教員が主導で「ヒヤリハット体験」をグループで共有する活動であったが、今年度は、先生方の協力により、我々主導で「ヘルメット」の交通安全学習を開いていただけることとなった。本学習では、特に以下のデータとメッセージを通じて、ヘルメ

ットが「命に直結する」ものであることを強く訴えた。そして、事前アンケートを元に、どのような活動を実施したら生徒がヘルメットを着用するかということを念頭に内容を考えた。

1. Teams で全クラスに向けてプレゼンテーション (担当 長柄秀真)

事前アンケートの結果や、キャプテンが8月に参加した「高校生サミット in Aichi」のヘルメットの議論、愛媛県の高校生の交通死亡事故例などを動画を用いてヘルメットの重要性を訴えた。詳しくは別紙のスライドを参照。

2. デザイン案の公募 (OGK カブト協力)

「自分に似合う、蒸れないヘルメット」を生徒自ら考案するため、ヘルメット最大手メーカー「OGK カブト」の協力を得て、デザイン案の募集をした。優秀案はメーカーへ提案した。

3. 補助金の効果 (担当 山中俊輔)

ヘルメットの補助金について、対象者や対象商品、申請方法、申込期限など基本的事項を説明し、約90%の生徒が「とても理解できた」または「やや理解できた」と答えた。実際に、私たちの活動によりヘルメットを購入した生徒がいたため、ヘルメット補助金の説明は有効的であったのではないかと考える。

4. 法改正 (青切符制度) への対応 (担当 鈴木壮)

ヘルメットとは関係ないが、法改正で青切符制度が追加されたことを周知するポスターを西尾警察の方からいただいたため、クイズ形式で野球のストライク、アウトという表現を用いて面白く真面目に伝えた。

5. ヘルメット考査 (担当 中村卓海)

交通安全学習の最後には、私たちが独自に作成した考査を実施し、上記1.～4.で解説したことについての理解度を測った。約6割のグループが正答率60%を超える結果となった。これは西尾高校生が真剣に我々の話を聞いてくれた証拠である。そして、西尾高校生がヘルメットの重要性について理解しようとしていることがわかった。

④ 交通安全教室の事後アンケートと SNS の活用

これらの活動によりヘルメットの重要性を理解できたと答えた人は全体の95%に上り、生徒や先生方からも例年の交通安全教室よりもユーモアがあり面白く、内容が入ってきやすかったといった意見が多数寄せられ、効果は絶大であったと感じた。

近年の高校生は、SNSの利用率が高く、広報力も高いと感じる。今年度の学校行事でもSNSでの呼びかけが効果的であったことから、ヘルメット着用の呼びかけでも使えるのではないかと考え、アカウントを作り、私たちの活動やヘルメット着用向上のための呼びかけなどに活用した。手軽に生徒たちに広報できるため、我々の活動に大いに役立ったと感じている。最終的には、フォロワー数が百人規模のアカウントとなった。(フォロワーは西尾高校生のみ) また AI を用いた新しいヘルメットコーデなどを書き込んでヘルメット着用率向上に努めた。

活動の成果	<p>ここでは、全体を通して得られた成果について述べる。なお、各活動後の成果については「取組活動」にも記載している。ヘルメット着用率は、事前アンケートでは12%であったのに対し、事後アンケートでは26%まで上昇した。活動を開始した当初は、「なんでヘルメットの活動なんかやってるの?」「ヘルメットなんかつけないし。」といった否定的な反応も少なくなかった。しかし、活動を継続する中で、次第に肯定的な意見へと変化していった。事後アンケートの自由記述では、「真剣さの中にユーモアがあり、良い活動だった。」「ありがとう、ヘルメッポ。」といった声が多く寄せられ、本活動に賛同し、応援してくれる生徒が増えた。さらに、この活動をきっかけにヘルメットを購入した生徒も複数いる。</p>
活動を通じ感じたこと今後の活動について	<p>数字が示しているとおおり、活動前のヘルメット着用率は、クラスに1~2人、あるいは0人というクラスも多く見られる状況であった。それが、活動後には2倍以上となり、およそ30%程度まで向上した。しかしながら、依然としてヘルメットの使用率は低い水準にとどまっている。ヘルメット着用率グランプリをクラス対抗としたことで、「取り組みやすくなった。」「参加しやすかった。」という声が多く寄せられた。一方で、強制すべきか、あるいは法的に義務化すべきかと問われれば、自主的にヘルメットを着用する雰囲気を作るほうが望ましいと考える。今回、私たちが実施したヘルメット着用率グランプリは、一定の効果を上げたといえる。交通安全学習などについては、すでに県警の皆様が取り組んでくださっているところだが、このグランプリを愛知県全体で、学校対抗・月例の形で実施すれば、さらに意欲を高めることができ、非常に意義のある取り組みになると考える。本報告書には書ききれなかった内容も多くある。もしグランプリに選出していただけたら、より詳しいデータや活動内容について県警の皆様へ説明し、効果が確認できた取り組みについては、愛知県全体へ展開していただくことを提案したいと考えている。</p> <p>ぜひとも、西尾高校「ヘルメッポ少佐」をよろしく願いいたします。</p>

※ 適宜、行間を調整して記載してください。

提出締切 令和8年1月16日(金)

提出先 愛知県警察本部交通総務課 メールアドレス : kousou@police.pref.aichi.lg.jp

〈作戦一〉呼びかけ



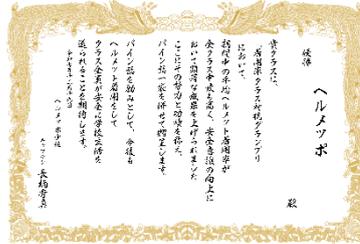
😓👉 西尾高校 ヘルメッポ少佐よりヘルメットを被ってくれないあなたへ

ねえ…毎週言ってるのに…なんで無視するの？ほんとに…わかってないの？
 「高いから…」 「面倒だから…」 「似合わないから…」
 そんな言い訳、聞きたくない。事故は待ってくれないのに。
 転んだら…どうするの？頭打ったら…戻らないのに。
 かぶってくれたら嬉しい。かぶったら命守れるのに…なんで？命より大事なもので…ないの
 命より髪型が大事なの？ヘルメットかぶるのはかっこいいよ？私はそんなあなたが好き❤️
 来週また昇降口で見てるよ。かぶってきたら…嬉しい大好き。かぶらなかつたら…悲しいだけ。
 #命を守る鎧#ノーヘルださ#ヘルメットかわいい#西尾高校ヘルメッポ少佐#ヘルメットイケメン

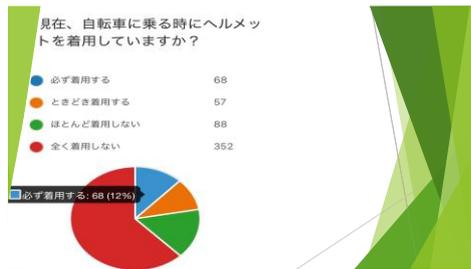


〈作戦二〉グランプリ

チャンピオンシップ
 部門優勝クラス、MIC
 部門優勝クラス
 ▶ パインアメ
 袋
 ▶ 賞状



〈作戦三〉交通安全学習



ヘルメットのつけない理由として

- ▶ 自分に似合わない
- ▶ 熱いし蒸れる

自分に似合う熱くて蒸れないヘルメットを作ればいいじゃないか！



そこで聞いた愛媛県の方で子供をヘルメットを被らずに交通事故で失った方が僕の心を動かされたので皆さんにみてもらおうと思います

皆さんは保険に入っていると思います
 例えば物は壊れても保険でお金が帰ってきてもう一度買えます
 しかし、あなたの命は保険に入っても亡くなったら戻ってきません
 もしあなたがヘルメットを被らずに事故を起こしたら絶対に今ヘルメットをかぶっていない自分を猛烈に恨むと思います
 僕たちヘルメッポ少佐は皆さんの命を救いたいと思っています
 なのでお願いします
 ヘルメットを被って欲しいです



〈その他〉

